

昭和17年2月1日（日）

昨夜来降雨。殆ど終日降り続く。報告物を作成す。巖来たり。附添婦急病、代わりの人間を物色するも中暦正月とて、誰一人待機し居る者なく当惑せりと云ふ。余に相談かけたるは、野口さんを助勢に頼みたい意嚮に出でたるらし。それととりて、余は命令を以てそうせよとは謂ひ難し。野口さんの好意でそうするからと余に相談かけるなら、問題が違ふと曩に注意したるが、此日十時頃、野口氏巖方に赴きたる際、相談して来たりしものかとも思はれたり。恰度正午の飯時、久子も飯を食べ居るに付き、鰯が手に入りたりとて、巖にも昼食を振舞ふ。更に四時頃来たりて久子の寝具を持行く際、野口さんも来たり。余に巖方に助勢したき旨を以て、休暇を請ふ。締切り時刻頃、一旦帰局して前田さんに助力するなら、前田さん一人にてなりと出来るかも知れぬと、之を許す。久子、此日細川医院に入院の際、附添いとして傭入れし人に遇ふ。風邪にて休養し居ると云ふ。余は其の人を傭入れよと云ふ。巖敢えて気乗りせぬのは、野口さんと久子の外、余計な人を要せぬと云ふ肚らし。どうも巖の気持ちは余には解せぬもの多し。余り永く帰らぬので、井内さんから電話を注意し来る。

昭和17年2月2日（月）

暖かで大寒中の気温とも覚えぬ。。ストーブを廃す。防空演習。朝の切手代金払込み、及び品物の請取り共、余行く。此の朝横田より餅、白五黒五貰ひ来らる。焼いて頂く。昨、雑煮を食べて居るを乳貰ひに行ける際、見て来たりし由なるが、先方でも気の毒がった結果とも思はる。浪花節、各方面から傭はれ、十円二十円では行か

ぬと頗るの気焰なりと云ふ。結構なこと。切手請取りに行きし際、栄町局の分を持来る。調べて見るに不符合に付き、電話するに栄町が取りに来たりし際、そちらに廻らせるからとのこと。然るに防空演習にて、爆弾墜ち通行途絶の向き多く、栄町事務員も日の出町は通行途絶故、持戻りしと電話し来る。四時伊勢さんに栄町分を託し、明朝出勤の際、栄町局より当局分持来るやう頼む。日の出町にも数力所訓練あり。紋平組の活動あり。砂囊も紙にて三つ製りたり。夜に入り燈火管制。八時前消燈、寝る。四時頃野口さん来たり。一時間程整理に加勢の上、北浦町に戻る。此の日、天気晴れ間なく曇り、雨模様。市内大部分、戸を閉鎖しあり。坊を相談所に連れ行き診て貰ふ。二日分薬を貰ひ来らる。先生も今度のは、数日継続して仕事に当たるらし。便を持来しと云はる。明後日、持行くこととせり。

昭和17年2月3日（火）

夜来降雨。昨夜燈火管制の為、早く寝る。今回の演習は方面に依りて幾区域に亘り施行され、一日で終了。今日は角木方面。巖は集金に出勤。其の後から、紋平組として野口さんに出勤せよと命令ありしと。昨日二時頃より、四時頃まで跡始末。今日も少し遅れて来たり。四時半近くまで補助して販らる。曇り、細雨時々降る。切手代納付、及び請取りに行く。昨栄町局の切手は、伊勢さん販宅の序でに持行き、栄町局に依りて持行かれた当局分は、伊勢さん今朝出勤の際、持参さる。今朝坊やの大便は、色が黒いがそれらしき軟便となり、一家歓声湧く。鶏卵数日前より買い漁り、漸く20以上となる。明日、島原先生宅に見舞に行く手配す。今日珍しく窓口切手百円を超

ゆ。割引二百七十円、合計四百円弱。今日も割合暖かなり。ストーブ焚きたるも午前中、午後は補填せざりし。葉種屋大川氏主人、57才の若さにて本日死去。8才の小児が居る由。此の家の娘が見習いとして石黒に居る由。葉剤師の試験を毎年受くる由なるも、運悪く合格せざる由。老父は喘息らし。頃日、ミワさん坊を負ふて外出ばかり。卵買、乳貰ひ。曰く砂糖、曰く米麦。此日麦一斗、二円六拾錢。うどん五把16錢づつ。道子から葉書。澄子中耳炎、阿野医に通ふに、激痛は去りたるも性質は頗る悪く、風邪毎に中耳炎を誘発する危険あり。徹底的に治療の要ある旨通告あるも、期間は相当長きやにて、もう四五日中には来る計画し居るとあり。宮城さんに産組に勤務したきに付き世話して頂く様、照復を重ね、漸く近日中、市内其の方面より訪問ある筈になり居ると。今澄子に行かれては、紋平組としての応召にも支障あり。勤務先に対する取扱いにも影響あるので、頗る当惑し居るらし。此日節分。愈々、寒明けとなる。

昭和17年2月4日（水）

立春。道（さすが）に連日の憂鬱の天候を蹴飛ばして、朝来珍しくも碧空を望み、陽光照々として、昨日までの冷氣も何処にやら。此朝、坊や早く起き大声に泣く。切手代金払込みに拾錢玉六ヶあり。之を事務古物皮に収め持行く。石黒の前にて、拾錢アルミ転げ落つ。はっと思ひて改め見るに、六枚ある筈の拾錢玉一枚も残存せず。大いに驚き、其の儘飯局の途中注意して過ぐるに、寺町ブリキ屋の先にて、拾錢玉アルミ及び白銅取混ぜ四枚、殆ど堅まって発見したり。猶一枚を貽（のこ）すのみとなる。飯局の上、不足拾錢を補填し、無事納入の上帰

来したるに、石炭箱の傍らに拾銭玉一ヶ転げあるを認め、是れにて全部完全に余の掌中に納まる。何と云ふ奇蹟だろうと、恠（あや）しまざるを得ず。寺町道路には次ぎ次ぎと自転車の通行人が通過したるに、誰一人気付かぬのも不思議と云ふ外なし。多分、徒歩者が皆無だったのかも知れぬと思ひぬ。薬種屋大川氏主人公、本日死去の告別式、四時から五時。亡主人は五十余、八才の子供ありと。娘は石黒薬局に住込み居ると。坊、右の耳に手を入れること屡々、後検査したるに、指で掻き傷を出来がしたらし。ミワさん報告物の為に、七時より坊を寝かし、八時まで炬燵に抱き居り寢床。午前十時には、相談所に大便持行かる。一時間待たさると。処方箋を貰ひ、二日分購入。水薬と粉薬と中津薬会より求むと。今朝鼻水多く出し、風邪引きたる嫌いあり。夜に至り、多少熱発の兆しある如し。検温したるに六度三。髭剃りす。

昭和17年2月5日（木）

昨午後四時頃、放送局の渡辺浩と云ふ人来。松川巖氏の北浦町はなしと云ふ。余に聞けば分かると思ひ来たりしと云ふ図にて、指示電話六百番木内主事のを介して呼び出して後、訪ねらるるがよからんと、宿屋の高本屋を教えてやりしが、本朝来たり。巖氏の斡旋に依り、会場設備整ひたる禮に来られ、預り置きし鞆を遣る。十時三十分より特定局長のみ集合。総務部長も見え、又逡信局よりも来たり。十一時より午後二時三十分に及びたりと。後刻、巖来たり。明日別府に行き、この分は集金所の打合会にて。今日は世話役の慰労に、自分をも加えられたるもの。欠席、中津局長外一名と。昨藤岡レイ子氏より久子への手紙は、今日野口さんが二時から四時整理の

為、来局の際届けらる。籍問題にては不満ある如し。此日も快晴。梅花綻ぶ。坊や湯に五時過ぎ行く。午前十時相談所行き。便持行き、今度は一時間待たされ、向かいの中津会営薬局にて、処方箋にて、二日分購入40。水薬と粉薬。

昭和17年2月6日（金）

本朝電話にて相談所に尋ね、以前の薬三日分購入。坊や漸く元気恢復し来たり、愁眉を開く。午前中曇り、午後より晴れ。印紙豊浦より百円請求あり。十時過ぎ、余請求に行き、午後再び請取りに行き豊浦に配達す。道子より小包にて、余の襯衣と鰯の団子、油なき為、煮付けて送付越せり。野口氏午後二時来たり。久子腰痛く何分にも働けぬとて、引揚げ方申出づ。夕食鰯団子にて頂く。当地にも鰯多量入荷。ミワさん求め置かる。坊や頗る機嫌よし。道子に葉書を発送す。夜に入りても雨時々降る。寢床十時半。

昭和17年2月7日（土）

朝の間降らず。八時頃より降雨。午後零時30分頃より歇む。久子夕方、巖に蒲団と淳坊と共に送り届けらる。間もなく夕食、6時湯に行く。余坊やを20余分遅れて届く。同時に淳坊を受取り来る。切手代払込みには和傘を使用。品物受取りの際は、先刻巖に貸せし為、一本の傘はミワさん乳に行く際に持行き、止むなく雨を冒して出掛けたるが、帰りには全く歇みたり。巖午前9時過ぎ来。極力人を物色するとて、傘を借りて行きたるが、余切手を受取りて販るさ、西野聖心看護婦会前に自転車を置き上がり、框で新聞を見て居るのが巖らしく感じ、後刻尋ねたるも

・・・(ここで1行分、2月11日新聞切り抜き貼付の為、判読不能)・・・居らぬと主張することは、別に為にする処ありての謂と見ることも???。

昭和17年2月8日（日）

米英に対する大東亜戦争宣戦の勅令発布の日を記念し、毎月此の日を一日に振替へ、興亜奉公日とす。森田さん七時半出発。ミワさん菓子屋にて、1円生菓子特に分配を受け、土産に贈る。大分の亡夫の法養を行ふらし。午前中曇り、午後より晴れ。風強く寒し。坊を行火に暖むること1時間。2時頃心地よく寝る。下に寝せたるに、起きて遂に眠らず。巖の附添老姥らし。余計な仕事せぬ模様。2時頃買い物に来たりたりとて、光子さん立寄る。中津市総合防空演習。燈火管制。早く寝る。

昭和17年2月9日（月）

曇り。寒気強く朔風、手凍ゆ。久子朝午（ひる）両度、飯食はず。お腹の具合悪かりし如し。切手請求なし。午後より時に陽射しあり。為替引き続き前田さん。伊勢さん8時より4時まで。森田さん午前11時、家を出て3時の汽車にて着。直ちに出勤。午後2時野口さん来たり、5時帰る。澄子夜に入るも来たらず。午前中窓口混雑。電報も近來になき多数36通。電為4通あり。小包も多く、書留通常も多し。坊や医かかり行き、処方箋を改め水薬10、粉薬15、三日分75。坊、昨より便秘。久子野口さんより話に依り、巖方に米がないので困っていると云ふ。余はミワさんに咄して、三升程出して貰ふべしと約す。此の夜ミワさんに旨を含め、三升出して遣るべきことを通告す。然るに、久子から直接自分に咄して呉れてもよろしきを、

何故隔てるかと喧しく謂ふ。其の為、余は久子を責むる必要なしと反駁す。遂に語気荒く、久子泣きて余の部屋に來たり。問題は尖鋭化する。

昭和17年2月10日（火）

此の朝も切手代20円不足、請求より面罵す。朝食時、翻然態度を改め、母堂を初めミワさん、久子に余の不心得を詫ぶ。事務室に入りては森田さんに詫ぶ。此日風強く、寒威猛（たけ）し。午後陽射しありしも暖かにならず。新嘉坡（シンガポール）陥落を目撃（もくしょう）に担って、記念切手を調製の間に合わず。4銭及び2銭に作為を加えて、4銭は6銭に2銭は3銭に売捌くこととなれり。此日割当数量、前者300、後者400請求す。電報の到着まで、公表見合のこととなり居る。明日より折尾、伊万里、臼杵、相浦、本渡の各局、普通局として昇格。局長以下の発令あり。中津局より中島、恩塚両氏、日田局在勤被命。明日出発の旨電話通知あり。尚、木元氏も臼杵局在勤となり、近日出発の由なり。

昭和17年2月11日（水）

（2月11日新聞切り抜きを転写し、日誌へ続く。）

綜合欄

特定局から普通局へ

きょう紀元節をト（ぼく）し六局昇格

熊本逓信局では紀元の佳節をトして管内折尾（福岡）伊万里（佐賀）日田（大分）臼杵（同）相浦（長崎）本渡（熊本）の特定局をそれぞれ普通局に昇格せしめこれに伴う人事異動を十一日附けで左の如く発表する。

熊遞局の異動 今十一日発令

長崎局郵便課長 井上 源吉 命折尾局長
福岡局保険課長 西村 信義 命伊万里局長
日田局長 広瀬 正雄 任通信書記命日田局長
熊本坪井局長 伊藤 盈雄 命臼杵局長
長崎局保険課長 佐田 弘 命相浦局長
佐世保電信局長 松本 重雄 命本渡局長
佐賀局主事 山口 房太 命長崎本博多局主事
大牟田局主事 有尾 熊五郎 命福江局主事
佐世保局主事 上野 一二 命伊田局主事
門司局書記 松本 国雄
小倉局書記 田所 茂 命中津局在勤（各通）
福岡電信局主事 角 敏光 命島原局主事
福江局主事 吉野 一人 命小倉局保険課主事
小倉局主事 尾崎 善三郎 命八代局主事
小倉局書記 寺川 一夫 命博多在勤
八幡局主事 野上 凰左衛門 命戸畑局主事
飯塚局主事 松崎 静 命甘木局主事
甘木局主事 吉村 進 命唐津局主事
伊田局主事 有吉 互 命諫早局主事
遞信局書記 高野 儀平 命佐伯局主事
佐世保局主事 山口 操
諫早局主事 松岡 義輝
福岡局主事 上田 光成 命熊本遞信局在勤（各通）
熊本局通信書記 林田 末男
鹿屋局同 松田 一徳
博多局同 門地 重男
熊本局同 大久保 雄

熊本局同 土井 行雄
大分局同 川越 悟
後藤寺局通信書記補 郡 久 命本渡局在勤（各通）
中津局通信書記 中島 実藏
門司局同 中村 豊二
久留米局同 菅谷 覚
別府局同 安部 義男
福岡電信局同 山手 卷藏
中津局同 恩塚 重郎
福岡電信局通信書記補 園田 長次郎
命日田郵便局在勤（各通）
佐世保局通信書記 平川 治兵衛
戸畑局同 遠藤 貢
若松局同 梅村 宗行
久留米局同 板井 進
佐伯局同 羽田 和三郎
大分局同 石川 金重
中津局同 木本 茂
若松局通信書記補 二ノ宮 秀雄
命臼杵局在勤（各通）
八代局通信書記 栗原 弥太郎
後藤寺局同 豊福 喜一
八幡局同 青木 玉七
同 同 高巢 善吉
門司通信書記補 篠崎 正
八幡局同 今市 昇
長崎局同 児島 高俊 命折尾郵便局在勤（各通）
久留米局通信書記 坂井 宗作

佐世保局同 於保 春雄

同 同 吉村 勝

同 同 谷川 正次 命相浦郵便局在勤（各通）

夜来降雪。此の朝、屋根上及び路傍の障碍物に、白皚々（がいがい）たり。終日朔風強く、寒氣衰えず。午前10時頃より晴れたり曇ったり。午前10時40分、耶馬溪線經由、中島主事出発。送る者拾余名。ミワさんと一緒に挨拶す。午後零時23分、荷物の都合にて恩塚氏は汽車にせざれば運ばぬとありて、大分經由久大線に因ることとせし由。休む暇なく再び出掛く。此度は坊や乳の関係もあり、坊を負ふて送る。余は両度共、和服に袴を穿きつ。此の方便なり。久子に貰った夏蜜柑、半分以上絞りて、坊に薄めて砂糖を入れて遣り、余は別に一箇食す。夕食後、鶏卵1ヶ頂く。これはこっそり失敬する。

昭和17年2月12日（木）

寒氣急に加わり、白雪皚々。切手類請求。金額少き為、見合はせんとせしも、資金請求ありて、序でもあり請求せり。今朝立替金の関係もあり、資金より差引の都合あり。裏口より事務室に入り差引きして貰ふ。ストーブ火消え、根本より直す。中津局木元書記、臼杵局に転勤となりし由を以て挨拶に見ゆ。午後6時近く、木下主事汽車に乗り後れたる故を以て、暇潰しに立寄らる。8時、坊や泣くこと甚だし。新聞半途に坊やを寝かす。其の促寝で終ふ。此日、午後零時30分澄子来る。朝、道子より封緘葉書。澄子痔が悪し。秀夫は痔瘻（じろう）なると云ふ。澄子、神経病み居ると。

昭和17年2月13日（金）

白皚々。寒気強し。澄子、米の配給、例の分より外米少なき為、鮎作りたりとて大量持来る。昨夜うどんを拵え、殆ど余の為に拵えらるる結果となる。午後零時23分、木元氏出発に付き、ミワさんと見送る。発車迫るも見えず。郵便部より四五名来たり、待合し居る。遂に見えず。其の儘販り、直ぐに切手受取りに行く。昨日は此の時間に飛雪濱紛（ひんぷん）として、東北の空を想はせしも、今日はそれ程でなし。道路は概ね消えたり。日陰のみ猶残る。相談所に行かしめしに、今迄の先生居らず。島原先生病氣恢復、出勤し居らる。二日分薬を下さる。病氣見舞の禮心と見えし。坊や乳と乳の中間に、不足分を与へると。帰る直後に与えると得失。野菜のスープ、果物、鶏卵半熟等与えてよきや等、質したり。

昭和17年2月14日（土）

朝、雪一寸許り積もる。切手請求代金納付。午後零時三十分、切手受取りに出掛く。寺町角にて、後ろより余を呼ぶ者あり。振返れば野口さん。今北浦町より電話。愛子卒倒す。直ぐ来て呉れと。袋を光子さんに渡して其の儘行く。医師は俵屋と車とが門口にあるより、既に手当し居ることを知る。裏に至る。表座敷は子供等が占領し居る。余一見、既に緯（こと）切れ居る。医師は深呼吸を続け居るも、瞳孔拡大、最早施すべき術なき如し。注射3本すと云ふ。傍らに附添婦は、50銭貰ひてパンを買い来たりしとか、蜜柑を求め来たりしとか色々謂ふ。要は便所に独りで立ちたるが原因せしなり。然るに医師は曩に、そろそろ便所に行くを許したる言責もありて、今更それを否定出来ぬ立場となり、死の原因は心臓麻痺に依ると謂

ふ。かくて午後1時半、其の儘の姿にて宣告す。俵屋1, 20請求、交付す。巖不来。ミワさん後刻、坊を負ふて来たり。豊後町角近く、朝吹氏に会す。巖を尋ね、来るべき旨咄す。同氏快諾。4時過ぎ一緒に来たる。大声慟哭す。鎮静を俟って坊主の手配、棺桶其の他、準備せしむ。隣保班長守山氏、色々斡旋下さる。余夕食に一旦帰り、更に通夜の為に赴く。拾数名の同人あり。9時40分頃、皆帰る。11時頃よりアルコールにて身体を拭へ、白衣を纏わせ棺に納む。ミワさん及び余手伝ふ。子供等、光子さん、何れも裏座敷に逃遁し顔を出さず。余経を上げ、12時頃帰途に就く。飛雪頻粉。襟巻きミワさんのを借りて1時近く販宅。此の日、終日寒気衰えず。旧暦大晦日。

昭和17年2月15日（日）

旧元日に相当すと。朝、雪五六分、寒気は尚衰えず。午後二時まで来て呉れと云ふ。久子、巖の秀坊を連れて来たり居る。澄子は久子に去られては困るとて、此日朝吹氏に久子の蒲団類を搬ばしむ。斯くて、久子は二時前巖方に販る。余行きて20分計り、坊さん2人連れにて来たり。衣を改めて引導す。会する者20余人、後より婦人会連多数来る。3時小祝町の火葬場に送る。巖、朝吹さん、隣保班長等行く。余、外套なく行かず。ミワさん来たりしも、坊の乳の関係あり4時前帰らる。余5時、一応小祝より引き上げて来たる後、販らんとせしも、禮廻りしたしと云ふにぞ、30余軒悉く、兩人にて廻りて販宅。夕食を済まして寝る。

昭和17年2月16日（月）

朝8時53分、山口主事従軍を送る。局長初め多数の見

送りあり。此日は雪降らず。寒気漸く減退気味なり。巖来。尚昨朝、東吉富村幸子、高尾ヨシ子ミワさんと約束通り来訪。事務室にて面会。17日より出勤すと。巖は後妻問題を持出す。余大いに面縛（めんばく）す。尻尾を捲き引上ぐ。山口主事は5級俸のまま従軍の由。

昭和17年2月17日（火）

此朝珍しく寒威凜烈、10時頃まで持続す。天気快晴、陽春の面影を偲ふべし。10時、野邊賢助氏見ゆ。今到着せし由。一応挨拶して直ぐに北浦町に行かる。此日野口さん休暇。岩尾氏10時出勤。余、切手代金払込みを了して、身体検査に相談所に行って貰ふ。2時間を費やす。患者多数待合いに多費したる由。午後7時半、坊を寝かして、余も早く寝床。此日小野純一氏令姉、餅二重、約4升程のを持参。蒲鉾1円5銭分返礼す。

昭和17年2月18日（水）

寒威緩ぶ。午前中晴れ、午後曇り。新嘉坡陥落は15日午後10時。16日より国旗掲揚、今日旗行列。臨時郵便局を中津神社境内に開き、記念報国切手の売捌きを為す。三百枚は瞬時に売れたり。午後、切手請取りに赴く。途中魚の辻にて久子に会す。賢助さん、話し対手がなく退屈して居る。午後四時頃来いと云ふ。餅があっても、多忙を犠牲に出かける気になれず。野口さん丸久より肉を求めて帰るさ、断りて貰ふ。坊タムシの如き皮膚病にて、唇の下に出来、舐めるので容易に治らず。加之、咳時々出づ。相談所にて診て貰はしむ。薬頂き帰る。朝7時半頃、為替部主催、感謝貯蓄の大旆（はた）をかざして、太鼓を叩き市内を練り廻す。次いで各種団体工場

等、従業員紋平組等参加、大行列を展開す。相談所より菓5日分頂き来る。巖、午前中来たり。ラジオを修理に持行き呉る。用件は、香奠返しに何を遣るかと云ふことにあり。

昭和17年2月19日（木）

寒気多少緩和。切手請求なし。昨夜雑煮餅頂き、今朝聊（いささ）か腹加減悪し。昨光子さん、良助に嫁ける如き感激を以て、北浦町に行けるやなるも、今日巖のラジオを以て来たり。其の咄を綜合するに、原因は澄子よりそうして貰ふことが、子供の世話をして貰はれると云ふ打算的の態度より出で、勿論本人の領諾を得たるものでもないらしい。慶ぶべきには早きに失する。11時頃賢助氏来。座敷に請じ色々話を聴く。余よりも詳細通告し置きたり。福岡より中津に来たり纏めるべきを本筋とする点に付き、意見を加ふ。昼食を出し4時頃帰らる。賢助氏、嘗て酒に浸り親を泣かせ、親戚に疎まれたるも、断然酒を断ち今日に至ると謂ふ言葉、肯綮（こうけい）に中れり。曇天の儘終始。寒さは減退すと雖も、可なり厳し。ラジオ不良の点なしと云ふ。

昭和17年2月20日（金）

朝来曇り、風寒し。巖来たり。赤子問題を、二郎に引取って貰ひたき由話す。静江さんには愛がなさ相だと、澄子懸念すとも聴く。餅、進ぜたいから独りで来て呉れと、澄子謂ふ旨も聞く。余は同意せず。初七日、坊さん朝の間に来たり読経して販れる由。賢助氏、仏に一度も焼香せぬと批難さる。余午後7時、夕食後ミワさんと一緒に出発。ミワさん香奠10円の外、蜜柑1円程求め持行かる。

子供等、所狭きまでに床を展べ寝て居る。読経を終えれば、巖離れに来て呉れとのことに至る。賢助氏炬燵で寝て居りし様子。3人鼎座して巖が云ふことには、横田氏が深切に色々意見を述べられた一案は、久子が二人の赤坊を世話すること。二案は祖父が達坊を福岡に返して、秀坊を世話することと云ふに在り。道（さすが）に余の腹案通りとて、目の高いのに驚きたり。然るに秀坊を世話する肚は既に決めて居るが、ミワさん方の諒解を得ずしては口外出来ぬ問題故、昨日巖から咄がありし際も、その事には触れざりし旨を伝えて、自分の心持ちを告白し置きたり。賢助氏は巖と共に、単に垂頭するのみ。斯くて、8時半帰る。

昭和17年2月21日（土）

此の朝、6時43分発にて賢助氏出発。丸房露一円五銭にて求め、土産に遣る。巖は蒲鉾五十銭を30本求め、香奠返しとして賢助氏に遣る。二十、二十一日朝、餅焼き大部分、余頂く。北野氏の贈り物、これで没有となる。切手払込み四銭不足。十一時頃、資金請求の序でに持行く。午後零時四十分、庶務より早く品物請取りに来たれと催促あり。一時近く行く。時々陽射しあるも、風寒し。気温は余程上昇の気味あり。四時過ぎ十幾日振り、坊や湯に行く。先にミワさん行き、二十五分程遅れて、午後六時、余坊を連れ行く。母堂風邪気味、湯を見合わさる。熱はなき様子。斯かる場合ミワさんの孝行振り顕はる。

昭和17年2月22日（日）

曇り。坊や漸く元気付く。風依然寒し。午前十二時頃、澄子来たり。餅持参。夏蜜柑も持来る。生石灰は配給品

にて一般に売らず。横田の隣家の左官さんより貰ひ来られ、卵の白味と混和するに、凝結して涅着性のものとならず。稍失敗の嫌いあり。午後より降雨。夜に入るも降り歇まず。夕方巖来たり。悦子肺炎の旨、清松医の宣告ありと云ふ。澄子午前中買物に来たり。余の為に、夏蜜柑四つ（和博に依り拾得もの）塩川より貰い物しい、十余持参。此の夜、頂く。雑煮して・・・夜は事務室に行かず。ラジオを聴きつつ、炬燵に暖まり眠る。

昭和17年2月23日（月）

暖かくなる。一雨毎に寒さ減退するものと覚ゆ。それでもストーブ焚く。甚十郎氏より巖へ貳円、駒次より参円。前者は朝吹さんに頼み、後者は澄子（甘藷の油揚げ、途中より求め来たり。置いて行く）に頼む。秀坊は澄子が智子と一緒に、久子は淳坊を連れて福岡に行く由。斯くて、余の達坊を連れて販福の節に、秀坊を余に渡すことに諒解つき、悦子の平癒を待ち出発する由。悦子順調に熱も下がりかけたとあり。昨日ミワさん林檎三、30銭で求め来られ、四分の一坊やに与えしが、今日は蜜柑の汁のみやる。夜十時、容易に寝らず当惑せり。五時頃湯に行き、母堂も行かる。四五日風邪気味とて見合わせ居られたるもの。

昭和17年2月24日（火）

降雨。午前四時頃より午前中降る。午後より幾分小降りとなり、夕方近く歇む。巖五時頃来たり。三十分間程、塩川野辺家の家庭に付き咄し行けり。今日峯氏より参円、香奠送付あり。其の儘巖に遣る。キャラメル一ヶ求め来らる。坊に二ヶ遣る。悦子熱は全く降下せず、されども

順調と云ふ。生命に異状なきものの如し。道子より朝、葉書。風邪熱発。配給品は子供に求めて貰ふも、午前中より買い出しには棄権するより途なしとあり。此日午前十一時半、都浦憲兵伍長と称する背広服の人物臨局。蛭子町、吉田巧宛て送金有無取調べ申出あり。五時近く巖来たり。澄子等、二十六日出発、福岡行き決行の旨話す。蒲鉾五本、売れぬと云ふを無理に持来らる。これは、澄子への贈り物として準備と見えたり。シンガポール陥落切手、全部売り竭（つ）くしたり。四銭50、二銭150は扇状高女にて。

昭和17年2月25日（水）

曇天。此の日、丸久肉屋1、50一包みづつ、一人当て売出す。蛭蛭（えんえん）一丁、誠に壮観の感あり。ミワさんは二包み配達し呉れたり。夕方降雨。此夜、前夜に懲り、10時まで寝せずに起こして置く。前夜は1時頃起き出て、容易に寝らず閉口せり。夜坊やと早く寝りたるも、矢張り10時過ぎまで。結局は起きて居たも同様となる。

昭和17年2月26日（木）

曇り、夕方雨。切手請求。横田より朝、粉餅8ヶ貰ひ来らる。半数余頂く。午後1時汽車にミワさん出て見らる。乗込み居らず。3時にも見えず。例の蒲鉾と生肉は、土産として遣るだけに整えられあり。給料交付。朝、進耳鼻科と西野の中間に差し蒐るや、屋根瓦大きな音して地上に落下。余の直ぐ後ろに当たり、危うく難を免る。

昭和17年2月27日（金）

曇り、後晴れ。朝、木内主事宅に電話。巖を呼出して貰

ふ。28日出発す謂ふ。道子に牛乳の配給可能なるや、問合わせ中とあり。夕刻巖来たり。道子より返事は、牛乳配達不円滑。人乳を貰ふことも出来ると思うが、防空演習にて、そんな悠長な問題には触れ得ずとあり。此日二（ふた）七日。六時半巖方に至る。巖は子供を連れ湯に行き不在。余の飯らんとする頃、ミワさん坊やの乳より飯り来たり。野口さんと一緒に、例に依り、九年ボー80余銭求めて来らる。門口にて巖と会す。今日、満州国始政十周年記念切手、二銭300、拾銭10を請求。尚、澄子等は三月一日福岡に赴く由。道子よりは秀坊を連れて来るのは反対なる旨、通知ありしも、それに頓着なく連れて行く由。此の朝、九時十二分下りにて中島主事公式に出発。余見送りに出る。髭剃り、うどん朝食を食へる余裕は有せざりし。九時半一緒に頂き、切手請求代金納付に出本局。

昭和17年2月28日（土）

曇り。午前中、澄子夏蜜柑持来る。3月2日出発の旨。これは直接本人より聴いたわけではないが、二郎が3月中に来るらしい。。その問合せを巖から発送して居る。返事を俟つ為らしい。悦子の肺炎は平熱以下に低下したらしい。切手請求の序でに、島澤より請求の20円国債1枚を、5枚丈け請取りくる。恰度、竹折主事食事に局長室に行き居り、少時、今回小倉より転勤の田所主任と話す。20円国債はシンガポール陥落記念にて、意匠もそれに因み、飛行機と戦車と配置ある美事なもの。ミワさん国債と共に外部に働きかけ、百円券は全部消化され、20円券も殆ど消化の見込みがつきたり。貸付金問題にて、1ヶ年分の利子を受取りたるは、11ヶ月分正当と発見。出

納簿の日計、及び月計を訂正することとなる。10時に寢床。坊や容易に眠らず。夜半も数回起床、安眠を欠く。夕餉うどん頂く。